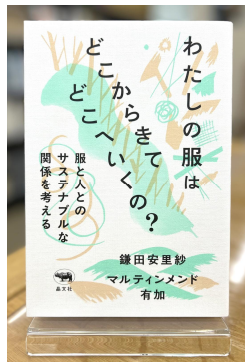


議会図書室からのお知らせ

『わたしの服はどこからきてどこへいくの？ ～服と人とのサステナブルな関係を考える』
鎌田 安里紗・マルティンメンド 有加【著】
/晶文社 (2026/2)



「ファッションとサステナビリティ」についてのモヤモヤ、まとめて掘り下げます！
値段はいくらが妥当？ サステナブルを謳う企業は信用できる？ そんな疑問に答えながら「服との付き合い方」を考える。

『未来が変わる！ 土中環境と有機土木』
高田 宏臣【著】/パルコ出版 (2025/3)

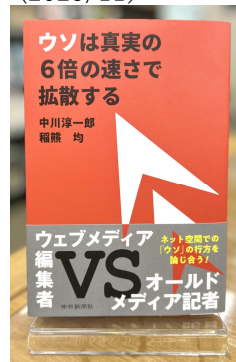


健康な土地を育みながら、防災や災害復旧、インフラ整備などの目的を果たす「未来の土木」とは？
先人たちの知恵と手法を生かし、環境に配慮した「有機土木」を、土中環境の視点から詳しく解説する。

☑ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。
出版社での紹介がないものは貼っていません。

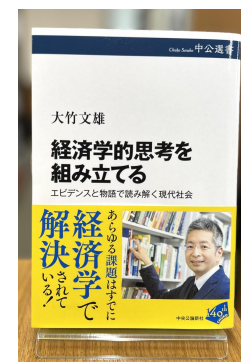
今月の新着図書
R8年9月（一般用）

『ウソは真実の6倍の速さで拡散する』
中川 淳一郎・稲熊 均【著】/中日新聞社 (2025/11)



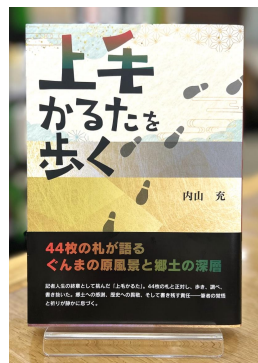
真実と嘘が混在するネット空間では、「ウソの情報」が求心力を高め、選挙や民主主義を飲み込みかねない。
収益にもなる「バズリ」「炎上」の拡散で、民意ではない嘘が支配する「ディストピア」社会の危険性を検証する1冊！

『経済学的思考を組み立てる ～エビデンスと物語で読み解く現代社会』
大竹 文雄【著】/中央公論新社 (2026/5)



長時間労働は減らせる？ 不平等を縮小する方法は？ 幸福感を増やす方法とは？
最近の経済学は「生活上の課題を解決する」ことを重視する傾向にあると言う。経済学を有効な道具としてどう使いこなすか、案内する。

『上毛かるたを歩く』
内山 充【著】/上毛新聞社 (2026/4)



群馬県民に広く親しまれる「上毛かるた」44枚の札を題材に現地を歩き、歴史や背景を丁寧に取材。各札に込められた意味や地域の記憶を掘り起こす。
「上毛新聞」で連載された内容を一部加筆・修正し書籍化。

『図解 まちをリノベーションする治水デザイン 15の実践』
二井 昭佳/岡田 一天【著】/学芸出版社 (2026/6)



「計画的に溢れさせる」などの発想の転換で気候変動に立ち向かい、まちを再生した欧州の水辺を、図解や写真を見ながら旅するような気持ちで読め、日本での実践方法もわかる1冊。
賑わいと防災が両立するまちのために。

『AIに恋しちゃダメですか？ ～AIと生きるための倫理と哲学』
清水 颯【著】/技術評論社 (2026/7)



人間と見分けがつかない応答を返すAI。そんなAIを単なる道具として扱って良いのか？ 絆を結ぶ存在として尊重するべきなのか？
AIと人間が共存する未来へのヒントを、カントなどの哲学者たちの思索から探る。

『Microsoft 365 Copilot活用大全』
アクセントチュア Copilot利活用推進チーム【著】/日経BP (2026/3)



Microsoft 365 Copilotを「使っているつもり」で終わらせない！
「会議議事録の自動生成」「質疑応答想定集の作成」「RPA的業務自動化」など、明日から成果が出るユースケースを豊富に収録した実用書。

▶特別委員会シリーズ②「湯けむり国スポ・全スポぐんま」、「多文化共生」に関する書籍

新着

『これからのスポーツの姿
改正「スポーツ基本法」を読む』

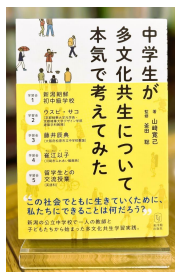
日本スポーツ政策推進機構【監修】
鈴木寛 他【編著】/学事出版 (2026/3)



「国体」はどうして「国スポ」になったのか？なぜ、部活動の地域移行は促進されたのか？それらを定める、昨年大幅改正された「スポーツ基本法」をわかりやすく解説！スポーツ庁も全面協力。

『中学生が多文化共生について本気で
考えてみた』

山崎 寛己【著】釜田 聡【監修】/東洋館出版社
(2025/4)

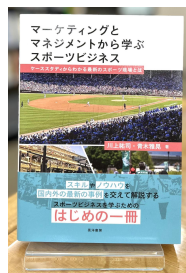


新潟の中学校で、1人の教師と子どもたちから始まった「多文化共生学習」。生徒たちが隣人を訪ね、問い、本気で考えた「共に生きる社会」の実現方法とは？彼らが自分なりの答えを導くまでの軌跡を綴る。

新着

『マーケティングとマネジメントから学ぶ
スポーツビジネス～ケーススタディからわかる
最新のスポーツ現場とは』

川上 祐司・青木 雅晃【著】/晃洋書房
(2026/4)



スキルやノウハウを国内外の最新事例を交えて解説する、「スポーツビジネス」を学ぶための入門書。スポーツの現場を熟知する2人の教員が描く、日本のスポーツビジネスの現状と発展の道筋とは？

『多文化共生社会のために
～社会的公正に向けた人権・教育の
視点から』

権 五定・鷲山 恭彦【監修】他/明石書店
(2025/3)

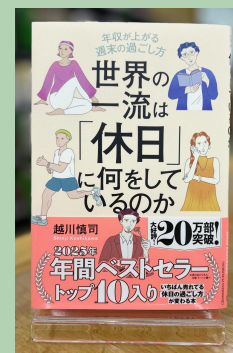


多文化共生社会の実現に求められる人権・教育への視点から、国内外の事例・課題を多角的に取り上げる。多様性豊かな執筆陣が集結し、コンパクトな章とコラムで構成。「共に生きる」ための入門書。

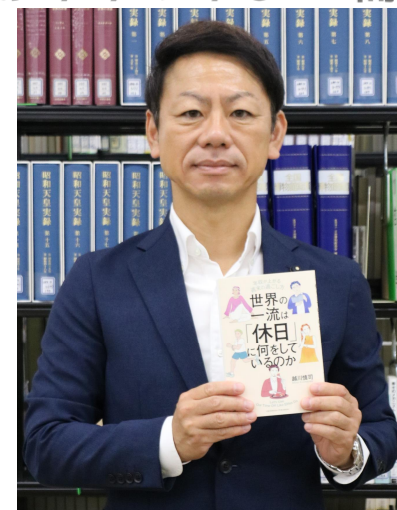


図書広報委員がおすすめする一冊

『世界の一流は
「休日」に何をしているのか』



【著者】越川 慎司/クロスメディア・パブリッシング
(2024年11月)



紹介者：松本 隆志委員
自由民主党・館林市選出・1期

休日は疲れを癒やすだけの日になっていないでしょうか。

越川慎司著『世界の一流は「休日」に何をしているのか』は、一流と呼ばれる人ほど休日を単なる休息ではなく、心身を整え、学びや運動、家族との時間などを通して、次の一週間への活力を養う時間として計画的に過ごしていることを、多くの事例を交えながら紹介しています。また、「疲れてから休む」のではなく、「最高のパフォーマンスを発揮するために休む」という発想の転換が、本書を貫く大きなテーマです。

私も本書を読み、休日の過ごし方を見直すきっかけとなりました。忙しい毎日を送る方にこそ、是非、手に取っていただきたい一冊です。

次号では、丹羽 あゆみ委員におすすめしていただきます！